

感謝と学び、そして責任

この解剖実習を通してやはり最も意味があったと感じたのは、それぞれの部位がどのように確認されるのか、実際にどのように交通したり、外科手術で何に気をつけなければならないのかといった、授業で得る知識だけでは理解しきれない事柄を多く学べたことです。実際に見て触れるまで想像もできなかった発見が本当にたくさんあり、江戸時代から多くの医者が腑分を試みてきたわけがよく理解できました。また意外なところから自分が得意とすることにも気づき、将来どのように働くかを考える上で大きな助けになりました。

名前も知らぬ一介の学生に身を委ねるということが、どれだけ未知で不安であるかは想像できません。しかしその中で未来のために献体してくださった方々には、感謝以外の何も思い浮かべることができません。

ご献体の重さは将来私たちが担当する患者さんへの責任の重さであるような気がして、これからも情熱を捨てることなく学び続けなければならないと決意を新たにすることができました。今後また解剖させていただく機会があるので、しょうが、人生で初めて人体の不思議を身をもって体感したこの解剖実習は、大変有意義で心に残るものであったと自覚しています。

## 解剖実習を終えて

今回、ご遺体を解剖させていただくことで、様々なことに気付かされた。

第一に、このような環境を作って下さった方への感謝だ。一般にはご遺体を解剖するという機会は与えられていない。だが、歯学を志す者として、このような機会を得ることができ、通常なら紙媒体等でしか勉強できない事を、実際に目で見て学ぶことができた。もしどなたも献体してくださらなければこのような解剖をすることはできず、人体の構造への理解も乏しくなってしまうだろう。それ故にこのような機会を設けて下さった方々に心から感謝している。

第二に、人体解剖実習をさせていただいたことで、明らかに紙媒体で勉強していた時よりも理解が深まったことだ。紙媒体で勉強する際に、立体構造を理解するのは難しい。また、何がどう繋がっているか、どのような関係にあるかということ、目で見ること、目で見ることではよりはっきり理解することができたように思う。目で見、自分の手を動かして考えた方が、より定着しやすいということ、身を持って感じた。

以上の二つを今回の人体解剖実習から学んだ。今後もこの経験を活かし、より一層勉学に励みたいと思う。

## 解剖学実習を終えて

6月から始まった今回の人体解剖実習を通して私は改めて医療を学ぶ学生としての気持ちが引き締められました。最初にご遺体と対面したときは、学生の身である私にご遺体を解剖させていただくという戸惑いと共に、しっかりと学ばせていただくのだというあの緊張感は初めて感じるものであり忘れられません。

実際にご遺体を解剖させていただくことで、今までは教科書や授業で見聞きしていたものを自分の目で確認することができ、より深い理解を得ることができました。班員と共に協力しながら解剖を進めていき、自分が担当しているご遺体だけでなく他の班のご遺体とも比べながら違いや特徴を身をもって学ぶことのできたこの時間は、大学に入り初めての本格的な実習であったのでとても有意義なものとなりました。

最後に、献体をしてくださった方々、そしてそのご家族の方々に深く感謝いたします。この経験は決して当たり前のものではないことを自覚し、私たち学生のためにご献体として提供してくださったお気持ちを無駄にすることのないように、歯学部生として日々勉学に励み研鑽を積んでいきたいと思えます。

## 人体解剖実習を終えて

献体の会の会員の皆様、そのご遺族の皆様、この度はまだ未熟な医学生、歯学生である私たちにご遺体を解剖するという貴重な機会を与えてくださりありがとうございます。ありがとうございました。まず、人体解剖実習を経て、将来医療現場で働くことに対する覚悟を改めて感じました。毎回実習を始める際に黙祷を捧げることから始まりましたが、そのたびに、ご遺体に刻まれた年月にも我々の想像を超える重み、命の重みを強く感じました。人間の体というのは自分が予想していた以上に複雑で、多様性にあふれており、形容しがたい尊さがあり、知らないことが多いのだと感じました。そして知らないことが多い中でも一人の人間として、最大限の敬意を持って接することの大切さを実感しました。

人体解剖実習の期間は今まで生きてきた中で最も命に対する姿勢を考えさせられる貴重な時間であり、たかが数か月、されど数か月といった非常に濃い時間を過ごすことができました。最後に、改めて、献体してくださった方、そしてそのご家族の皆様へ感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## 解剖実習の意義

年度も変わり、このコロナ禍の真っ只中、2年生に進級した私は解剖実習が実施できるのかという疑問を抱いていました。解剖実習は座学、教科書で学んだ人の体について、学生が自らの目で見て理解する大切な機会であり、医療人にとって欠かせないもののひとつです。

結果として実習は様々な制約こそありましたが行うことができました。未だ登校すら許されていない学生の多い中、頻繁に実習を行うことができるこの環境に感謝をし、より一層多くのことを実習から学んでこの実習を終えよう、と決意しました。時にはとても大変で辛いこともありましたが、この実習は私が将来歯科医として患者を診察するための大きな土台となるものであり、また生命の宿っていたご遺体を解剖させていただくというとても貴重な経験を無駄にしてはならないと気を引き締め、最後までできる限りを尽くしました。

最後になりますが、改めてこの解剖実習の意義を深く理解し、ご献体して下さった方々への感謝を申し上げます。

人間の素晴らしさ

まず初めに、献体してくださった方、またそのご遺族の方々のご協力のおかげで、今年も私たち学生が解剖実習に取り組むことができました。本当にありがとうございます。うございます。

世界中がコロナウイルスに侵されている中、私たちの学年は解剖実習ができるのだろうか、と不安に思う春でしたが、大学の感染予防対策の下で6月から解剖実習をスタートすることができました。

私が今回、ご遺体を解剖した中で一番大きく感じたことは、人体の構造の素晴らしさです。私たちの身体には、人間が生きていくために必要な組織が無駄なく身体中に張り巡らされています。そのおかげで、食べる、運動する、休息するなどの基本的な日常行動から、さらに原始的ではありますが見る、聞くこと、呼吸することなどができていることがわかりました。

今回の人体解剖実習に取り組めていなかったら、人間の神秘についてこんなにも生き生きと感ずることは絶対にできませんでした。重ね重ねにはなりませんが、このような貴重な体験を私たちにさせていただいたご献体者の皆様、ご遺族の皆様へ感謝致します。

ご遺体の解剖を通して得たもの

まず、この度の解剖実習に向けて献体をしてくださった、献体の会の会員の皆様方に深く感謝申し上げます。

人体の構造については、座学の授業でも学ぶことは出来ましたが、今回の解剖実習で実際にご遺体を観察し、触れることで、講義とは比べ物にならないほど多くのことを学び理解が深まりました。それと同時に、ご遺体は献体してくださった方々の人生の軌跡であると痛感し、学びの大切さは勿論、命の尊さや、自分の将来像、そして献体してくださった方のみならず、医療を受けるあらゆる患者さんの思いについても深く考えさせられました。献体してくださった方々の思いを無駄にしないためにも、実習には全力を振り絞って取り組みました。

この実習を通して、将来の日本の医療を担うために必要不可欠な知識を得ることが出来たと同時に、学びを重ねるごとに、将来患者さんの痛みや苦しみを取り除く医療者となる自分の立場を再認識する機会を得ることが出来ました。実習で実際に学んだことや感じたことを胸に、より多くの患者さんの人生を支えるためにも、これからも学びに全力で励み、それを医療現場でうまく活かせるように日々精進していきたいと思えます。

## 医療者としての自覚と責任の萌芽

はじめに、貴重なご遺体を解剖実習のためにご献体してくださった皆様に感謝を申し上げます。解剖実習は教科書で学ぶ人体の構造を3次元的に理解する上で重要なものであり、事前に学んだ知識を具体的に結びつける非常に学びの深い時間であったと感じております。その中で、私が解剖実習で得た最も大きなことは医療者としての自覚と責任だと思っています。私も含めてほとんどの方はご遺体を葬式で死化粧をされ白装束を着た大変綺麗な状態で目にすることはあっても、それ以外の形で目の当たりにすることはありません。さらに解剖するとなれば学部学生で医学科と歯学科だけなので学生の身分で実際のご遺体と対面することはとても神秘的でもあり同時に畏怖の念も感じました。慣れないうちは解剖実習後、帰路についてもそのご遺体の顔のことが思い浮かばれ、精神的にも肉体的にも疲弊するものでした。しかし、そのご遺体にも家族がおり私たちの医学の学びのために献体してくださると考えると、励みになるとともに自覚と責任の萌芽のようなものを感じ取れ、ますます努めて行きたいと思うようになりました。この実習を終え私は医療者としての意識がより一層強くなったと感じております。

人生のページに触れる

未曾有の感染症に見舞われ先行きも混沌としている情勢ですが、このような状況下でも解剖学実習を無事に終えることができ有難く思っております。ご献体くださった方々とご家族の皆様には心から感謝の意を表したいと思います。

私は解剖学実習に際して学生同士で相互学習を行う中で様々なご遺体と対面させて頂きました。そして観察を行う中で特に感じたのはどのご遺体にも差異があり一つとして同じものはないということでした。足の裏にできた胼胝。体を作り上げる筋肉の付き方や発達の仕方、神経の太さやその組織に至るまで。そういったひとつひとつの違いに触れているうちに、私は自然とその方のこれまでの人生を思い浮かべるようになっていました。「この方はアスリートで陸上競技が得意だったのかな?」「ものづくりをする人だったのかな?」など。こうしてその方々の人生のページに触れることで、私はこれから自分が医療人としてどう成長していくべきであるかということを改めて考えることができました。今回の実習で私が学んだことはあまりにも大きいもので、それはご献体くださった方々とご家族の皆様のお力添えによるものに他なりません。改めて厚く御礼申し上げます。

## 解剖学実習を経験して

2年生前期のメインといえる、人体解剖学実習が終わりました。私たちは今学期が始まる前はまだ教養しかやっておらず、この解剖学実習はいわば医療者になる道の第一歩になったと思います。

解剖していく中では多くの学びがありました。座学でならったものをより鮮明に覚えたりここまでで覚えられなかったことが分かったりというレベルのものから、教科書と実際の身体それぞれの差異を知ったりというものまで、幅広く大きく成長できたことは間違いありません。将来接する、人の命、というものを肌で感じることができました。

また、学生2人で1体の献体を解剖できるという環境も東京医科歯科大学が他の大学と比べてとても恵まれており多くの方々に支えられてるということだと思います。今日のコロナウイルスが蔓延している状況を考えると、医療に不安を感じることも多いですが、この実習を糧に今後も勉学に励み、歯科医師に向かっしていきたいです。献体してくださった皆様、本当にありがとうございました。

## 医療人としての自覚

ひんやりとした解剖実習室に足を踏み入れた時、ご遺体にかけられたタオルを取り初めてお顔を拝見した時の気持ちはこれから一生忘れることができないであろう。解剖実習の日が近づく度、不安や緊張、高揚感が高まり前日はなかなか寝付けないほどであった。しかし、お顔を拝見したその時に、ざわざわした気持ち収まり自分は医療従事者になるのだという自覚と覚悟が生まれたことを覚えている。

実際に解剖をして驚いたのは、人間の身体の構造のあまりの精緻さと合理性、人により細部の構造がかなり異なることである。貴重な解剖の時間を少しでも無駄にしないように、教科書で予習をして毎回の実習に臨んだが、血管や神経、器官や筋に至るまで個々のご遺体は異なっていた。教科書で学ぶと人間はどれも同じ体のつくりであるかのように感じるが、実際は個性が非常に反映されており、やはり実際に人体を目で見ることによって、ひとりとして同じ人はいない、ひいては個々人に合わせた医療が必要なのだと分かった。

最後に、医療の発展のため献体してくださった方へ感謝申し上げたい。医療人としての自覚を持つことができました。ありがとうございました。

## 人体解剖実習を終えて

まず初めに、私たちの学習のために献体してくださった方に感謝いたします。

初めてご遺体と顔を合わせた時、解剖学習がいよいよ始まるという高揚感や、人間を解剖するという初めての作業を自分ができるのかといった不安などの様々な感情がいきなり混じった自分でもよくわからない感情でした。今年はコロナウィルスの関係で歯学科の学生は頭頸部のみの解剖となっていました。いざ解剖がはじまってまず一番に感じたことは、人間のつくりは想像以上に複雑だということです。かなりの時間をかけて教科書で予習をしても、いざご遺体で確認しようと思うように解剖ができずに手惑いました。また、逆に教科書ではよくわからなかった部分が見るととても分かりやすいということもありました。今回の解剖実習で得られた知識は膨大だったと思います。人体の構造について知るよい機会となりました。

さらに、解剖実習で倫理的な事も学ぶことができましたと思います。はじめの黙祷で献体してくださった方に思いを馳せることで、将来人の命と向き合っていくということの重さを感じることができました。

今回学んだ事を無駄にせずこれからも勉学に励もうと思います。

得たものを胸に

私は、この解剖学実習で身に余るほど多くのことを学ばせていただきました。献体してくださった方、そしてその方に身をもって学ばせて頂いたことに心から感謝しています。解剖学実習をする前、正直なところ私は人体を解剖することに対して怖いという感情を持っていました。それは、人体について「何も知らない」という不安から来るものであったと今になって思います。いざ解剖を進めてみると、私は人体の整合性のとれた構造、神秘性に圧倒されました。この感情は、世界中の解剖学について書かれた本や論文をいくら読んでも得ることのできないものだと思います。自分の手で剖出した構造物を見て、なぜこの場所にあるのか、どんな機能を持っているのか、考えれば考えるほど深く人体の構造を理解することができるようになっていったと感じています。これは献体してくださった方がいらっしやらなければ決して実現できたことではありませんし、その方に一人前の医師、歯科医師になるための知識を与えて頂いたことにほかなりません。将来、沢山の患者さんを救えるように、献体してくださった方に感謝をしながら、得たものを胸に今後の勉学に励んでいきたいと思えます。

## 命を預かる仕事の責任

今回の人体解剖実習を通じて、人の身体に傷をつけること、その人の命を預かるということの意味を非常に強く感じた。実習をする前から教材やタブレットを用いて、人体の構造がどうなっているか勉強はしていたが、実際は想像していた何十倍も複雑かつ精巧に出来ていた。また、重さ、感触、ニオイ、自分の手で直接遺体に触れることにより五感で感じるその全てが未知のものであった。これから先に自分が仕事として向き合っていくことになる「人体」というものの凄さを思い知らされた気がした。そして、命を扱う仕事に就くことの責任がいかにかい重なものなのかを実感した。今後の授業には、この実習で感じたことを心にとめ、献体してくださった方のご厚意に恥じぬよう、今まで以上に真剣に取り組んでいきたいと思う。

最後に、この大変な状況の中でも実習を行うために尽力してくださった教授、教務の方々、そして献体してくださった方とそのご家族に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

私にもたらされたもの

解剖実習中は、目の前のご遺体を手順通りに解剖して観察するだけではなく、他の斑の献体を見せて貰って個人差に驚かされたり、剖出しにくいところは上手くできた友達と教え合ったりして色々な献体で学ばせて頂くことが出来た。

また何より、今回実際にご遺体を解剖して自分が一番得たものは勉学への向上心だった。授業のテキストやレジュメを見て学んでもなかなか頭の中で繋がらなかったのだが、実際にご遺体を解剖してみたら献体をしてくださったご家族の方々やご本人様に感謝を示すためにも、しっかり人体の構造について学んで歯医者にならなければいけないのだという使命感・責任感がとても感じられた。また全身への興味も高まった。先人のご遺体から学ばせて頂いたものが決して無駄にならないように責任をもって私たちはより一層学ばなければならないし、自分も将来は後の学生達へ協力をしたいと強く感じた。

そのように献体をしていただいたことで、人体について学べただけでなく今後の気持ちの持ち方にも変化がもたらされる大きな機会となった。この気持ちを忘れずに今後も勉学に向き合いたいと思う。本当に有難うございました。

## 解剖実習を終えて

今年の解剖実習は新型コロナウイルスの影響で期間が短かったが、それと同時期に1日で解剖を進めるペースがはやくとても大変だった。実際に解剖をする前は、不安な気持ちでいっぱいだった。ご遺体に触れることはもちろん、じっくりと見ることさえなかった。実際に解剖を進めることができるのかと思っていた。しかし解剖実習が始まり、私は将来歯科医師になることを実感することができた。今までは専門的な勉強がなかったので、歯科医師に一步近づけた様な気がして嬉しかった。解剖をしてみて気づいたことは、実際に見てみたり触れてみたりすることはすごく記憶に残ることだということだ。今までは図や絵で勉強していたが、それよりも解剖をしたときに学んだことの方が記憶に残りやすく、多くのことを学ぶことができた。初めて経験することが多くつらいこともたくさんあったが、良い経験ができたと考えている。ご遺体を解剖するという経験は、普通の人ではできない貴重な経験であることをあらためて実感した。この経験を生かしてこれからの勉学に励んでいきたい。

人体の発生について考えたこと

私はこの解剖実習を通して、発生学に非常に興味を持つようになりました。特に頭頸部を中心に解剖させていただきましたが、多少の個体差はあるものの、講義で学んだような筋肉、神経、動脈が確実に、そこにありました。当たり前といえは当たり前なかもしれませんが、例えば耳介側頭神経の輪の間を中硬膜動脈が貫くなどといった構造を、子宮の中で誰しもが形成するというのは、本当に奇跡なのではないでしょうか。人体の神秘、発生の神秘を学ばせていただくことができました。また、将来医療人として勤めるにあたって大切になってくる命の儚さ、尊さを知ることができました。献体してくださった方には、本当に感謝しています。机の上で3Dアプリで位置関係を勉強するよりも、こうして実際に自分で解剖し、その位置、形状を確かめる方が何倍も勉強になりました。この実習で学んだ経験を、いつか私が歯科医師になった時に必ず臨床の場で役立てたいと思います。

献体をしてくださった方に思いを馳せて

現在献体を希望してくださる方の具体的人数を把握している訳ではないが、通常生きている中で献体を希望してほしいという活動をしているという話は、献血や他の活動に比べてあまり頻繁には聞いたことがありません。献体を希望される方がどのような思いで協力してくださるのかを私達の言葉では空疎なように感じてしまうのですが、少なくともこの献体という行為が将来の医学や歯学の役に立つということを具体的に希望者自身にお見せすることが十分に出来ないということに対して、感謝とともに虚無感も感じています。ただ献体の会会員の皆様に対してはお伝えすることがあると思っています。それは、積極的な献体募集をしなくても献体人数が成り立っている現状は会員の皆様のおかげであると共に、皆様は現在の医療界を担う重要な方々であると誇りを持ってほしいということです。また、献体希望者が絶えず続き医療界が発展していくために私達も後世の人々に対して献体の医学における重要な意義をしっかりと指導していく義務を感じました。

いのち

今回の人体解剖は医療人としての決意を固める大きなきっかけとなりました。私は歯科医師になりたいと思いつつも、恥ずかしながら物心ついてから命と深く向き合うことはありませんでした。しかし今回の解剖実習を通して、命の神秘さ、そしてその計り知れない尊さを目の当たりにしました。また自身がまだまだ未熟で今後膨大な努力をせねばならないと実感しました。そして未熟な自分がこのような体験ができたのは何よりも献体をしてくださった方々のお蔭であり頭が上がりにません。本当にありがとうございました。またコロナにより社会全体が混乱に陥る中、学校によっては解剖実習が取りやめになるところもありました。そんな中で自分たちが解剖できるようにと熱い情をもって尽力していただいた先生方々にも感謝申し上げます。この3か月間去年の教養の生活とは大きく異なり、とても忙しく試される日々でしたが、自分なりに精一杯取り組みました。これは次への布石になると思います。将来きちんと社会に貢献できるようさらなる努力を積もうと思います。

## 解剖実習を通して

今回、私が解剖実習という貴重な経験をさせていただいて学んだ事は沢山ありました。ですがまず伝えなければならないことは、献体してくださった方に対する感謝の気持ちです。このような決断をしていただいたことで多くのことを学ばせていただく機会を頂くことができました。本当に有難う御座います。

そして、一番私が学んだことの中で印象の強い物事は命の重さ、生まれてきた事の素晴らしさです。人体の構造を観察してヒトの余りにも複雑すぎる構造には驚きを超えた感情でした。私たちが生まれてきたときには認知もしていない身体の中の機能が沢山の組織によって支えられており、さらに五体満足で生まれてきたことに関する感謝の気持ちも改めて感じさせられました。

また、人体の構造だけでなく生きていくことの尊さを学ぶことのできたこのような貴重な学習を忘れずにこれからの私の勉学に活かしていこうと思います。本当に有難う御座いました。

## 人体解剖実習を終えて

6月に始まり、今年は新型コロナウイルスの影響で例年より猛スピードで解剖を進め、あっという間に人体解剖実習が終わりました。解剖の授業自体は4月から始まっていましたが、登校することができずにいました。正直なところ、解剖の座学の授業が始まったときはこの筋肉や血管の名前を全部覚えるなんてと思っていましたし、実際座学だけでは理解を深めることは難しかったです。しかし実習を行うと、ここの筋肉がこう働くとか、この血管とこの血管が繋がっているとか、色々な角度で見ることができ、一気に解剖の理解が深まりました。改めて実習の大切さを学びました。私たち歯学部は今年は頭頸部の解剖しか行うことができず、体は医学部が解剖したあとの見学だけとなってしまったことだけが残念ではありましたが、それでも実習を行えてとても良かったと思います。毎年行われている人体解剖実習ですが、今年は特に当たり前に行われることではないということが学生たちによくわかった実習だったのではないのでしょうか。私たちの実習に携わってくださった先生方、そして何より献体してくださった方、ご家族の皆様にお礼申し上げます。

## 人体の偉大さ

解剖実習を通して人体の複雑で精工な仕組みに感動しました。座学で学んだ知識を実際にご遺体で探しだすことは構造の複雑さゆえに苦戦しましたが、徐々に目的のものを見つけ出すことが出来る様になっていくと知識と体験が結び付き人体の構造が見えてくるようになりました。各々の構造にはミクロの視点からは各々の機能が備わり、それらが繋がって循環していることを確かめ、改めて人体は偉大だと存じました。このことにより、人体の構造や機能への関心がより一層高まり、専門科目への勉学への向上心も上がりました。

未だ人体において未知の領域は残っており、それらに関する研究が世界各地で行われ、近年でも数々の発見がなされています。これからも新たな発見が見つかり、現在は未知の領域が構造として見えるようになることが楽しみです。

このような貴重で充実した経験の提供にご協力して下さい、献体して下さいの方々、そしてその知識を提供して下さいった先生方に深く御礼申し上げます。この経験を活かし社会の医療の発展に貢献できるよう、これからも勉学に懸命に励みたいと存じます。

教科書だけでは学べない多くの学び

私はこの解剖実習を通して、とても多くのことを学ぶことが出来ました。ここで特筆すべきは2点あります。

1点目は人体についてのより深い理解です。普段の勉強などで神経や血管の走行、筋のついているところ…などの「知識」は得ることが出来ます。しかし、それらの立体的な理解は平面上の紙の勉強では得ることは難しいです。実際に自分の手で遺体を解剖することにより、体内の重要な構造物についての知識は確固たるものとなりました。将来歯科医師として働く際には、この「立体的な構造の知識」は患者さんへの適切な治療を行う上で非常に重要となってくると感じます。

2点目は感謝の気持ちです。前述した知識を得られたのは言わずもがな、献体してくださった方がおられたからです。多くの方々が、我々のような将来の医療従事者の勉強のために献体してくださったことは、感謝してもしきれないことである、と解剖実習中常々思っております。今回の実習で得た知識をもとに、献体してくださった方の気持ちに報いるように、これからもずっと勉強をし続けて将来の職に役立てたいと考えています。

## 将来医療に従事する者としての自覚

まず初めに、献体してくださった方に感謝申し上げます。解剖実習を行う前まではあまり将来歯科医師という医療関係の職業に就くために、今大学で勉強しているのだという実感があまりありませんでした。しかし解剖実習を経て、将来患者さんの体を治療のために危険にさらしうる医療関係職につくのだという自覚が芽生えました。自分が想像していたよりはるかに人体の構造は複雑で、患者さんの治療に当たるときに完璧にその構造を理解していないといけないということ強く感じました。また自分の命についても考えるきっかけにもなりました。何気に考えていた命の重さというものについて、きちんと考えないといけないと感じましたし、何よりもこのような複雑でひとつひとつの構造がきちんと役割を果たすために適したものになっていることに驚きました。

これからまだまだ学生生活は長いですが、一つ一つの勉強をきちんと大切に、今回の解剖学実習で学んだことを決して無駄にすることなく将来歯科医師として、患者さんの役に立てるように精進しようと思います。最後に献体してくださった方、そしてご遺族の方に改めて感謝申し上げます。

解剖実習で感じた全身のつながり

頭部の解剖時、のちに歯に分布する枝を出す源となる神経を見て、歯は歯だけで独立して存在しているわけじゃないのだとふと思った。歯学部といっても歯だけを診ていればいいわけではなくて、歯がきちんと機能するために必要な周囲の血管・神経・筋との関係も考えないといけないのだと実感した。また咀嚼時などに歯が正しく機能することが、口を取り巻く筋肉やそれにつながる顔面全体の筋の機能・形態維持に欠かせないのだと改めて思った。脊髄を観察した時は、全身がここを通る一つ一つの神経でつながっていて、ここで膨大な情報がやりとりされているのだということを目で見て理解でき、人体はなんて精密にできているのだろうと感動した。細い神経が少しでも切れるとそれが支配する部位に簡単に障害が生じてしまう。私たちが普段当たり前に色々なことができているのはこれらの神経、そして血管など周囲に存在する血管などが切れたりすることなく正しく働いているからであって、それは本当にすごいことだと思う。献体してくださった方々をはじめ、このような貴重な機会を与えてくださったすべての方に感謝申し上げます。

## 解剖実習を終えて

解剖実習では、短い期間の中で多くのことを学ぶことができました。初めはご遺体を解剖する責任に少し不安を感じておりましたが、このような貴重な経験ができることに感謝しております。

これまでの講義や教科書で学んだ人体の構造を頭の中に描いて、実習で確認しようと考えましたが、人体は思った以上に複雑だと感じました。同じ筋肉を支配する神経でも、人によっていろいろなバリエーションが存在しています。それを観察して、人体の正常な機能を支えるためにどれほど精緻な仕組みができているかを記憶に強く刻むことができました。実際に自分の手で解剖し、自分の目で観察することで、人体の構造を深く理解できるようになりました。それだけではなく、ご遺体と向き合った時、初めて自分が生きているということ強く感じました。命とは何かという命題を少し理解できたような気がします。

このような貴重な経験は献体してくださった方とご遺族の方々の協力があったからこそできたものです。本当にありがとうございます。

## 経験

この度は献体してくださった方、またご遺族の方々に感謝申し上げます。将来医療に携わる者として、また一人の人間として大きな経験をさせていただきました。

医療従事者を目指すようになったのは高校生の頃でありその頃の私は死について考えることより、生きることについて考えることが多かったと思います。病気を治して患者さんにより良い生活を送ってもらいたい、その家族を安心させてあげたいなど前向きなことを考えていました。しかし今回の実習を経て、死に向き合うことの大切さを知りました。

教科書に記載されている内容と、実際のお体は必ずしも一致はせず、わずかな構造の違いがあったり、病気が原因となり発生した部分があることが個人的に驚きました。教科書でしか勉強してこなかった私にとって実際に自分の目でみて学習するということは本当に大きな経験になったと感じます。

今回の経験で得たことを一生忘れずに学び続け、患者さんのために働く医療者を目指して努力し続けたいと思います。

本当にありがとうございました。

## 解剖実習

今年度は新型コロナウイルスのために6月末まで解剖実習の時間割が定まらない先が見えない中で、そして、圧縮された時間の中で勉強しなければならず、不安でしたが、一通り、人体の構造について学ぶことができました。ご遺体を解剖させていただくことで、座学で学んだ器官の位置関係、脈管や神経の交通などがよく分かりました。教科書や図説の簡略化された図とは違い、ご遺体には脂肪や結合組織などがあるために、神経を見つけるのがとても難しかったです。また、筋肉や軟骨・骨と関連付けて勉強することができたので、ある程度、体表から見てどのような位置に神経や動静脈があるのかをイメージすることができるようになりました。この解剖実習で学んでいなければ、将来、臨床の現場で患者さんに治療を施すときに、自信を持って治療できなかつただろうと思います。この解剖実習を通して、自分は多くのことを学べたので、献体してくださった方の医学教育・研究に協力しようという思いに少しは応えることができたのではないかと思います。ありがとうございました。

「勉強させていただく」ことへの感謝

私は解剖実習を通して「勉強させていただく」ことへの意識や感謝を強くもつことができた。

医学の発展や医学教育は、余すこと無く常に先人達が道を切り開いてきた努力や、医学の発展にご協力いただいた患者さんや献体してくださった方によって成り立っている。医学、歯学の勉強全てに当てはまるこのようなことだが、座学の授業などでは深く意識をする瞬間がそう多くないことも事実だ。

そのような中で、今回の解剖実習では自らがご遺体を解剖することで教科書だけではわからない「実際」を学び、知識や経験を定着させることができた。また過程において、現在進行形で知識を得ているこの瞬間は、ひとえに献体してくださった方によって成り立っていることをひしひしと痛感することができた。そして、普段の授業や教育課程においてもご尽力くださっている方が必ずいる意識を深くもつことができた。

私にとって今回の解剖実習は、「実際」を目で見て学ぶ機会であったと同時に、普段の学習機会での意識を変えることにもなり、大変有意義な時間であった。

献体して下さった方へ

僕は今回の実習でたくさんのことを学びました。こんな経験はそうそうできるものではありません。我々が将来医療人になるにあたり、欠かせない経験になったと思います。座学では学べないこと、感じられないことをたくさん経て、将来の自分の医療人としての責任感や実感がより一層強まりました。自分にできることは、しっかりと予習をして最大限に自分の身になる実習にすることであると思います、毎回最大限の事前準備をして取り組みさせていただきました。

命あるものを取り扱っているという実感が強く、絶対に無駄にはいけな  
いという思いもあり当然のことながら終始緊張感がありました。

我々が今回の実習をできたのも献体して下さった方々のおかげであります。僕は期待に応えられるよう、これからも日々精進していかなければならないと強く感じています。立派な医療人になることが僕らからの恩返しになればよいと思います。本当にありがとうございました。

## 貴重な体験

献体してくださった方のご遺族の方々、献体の会の会員の皆様方、今年も我々東京医科歯科大学の2年生の解剖実習へのご協力ありがとうございました。私はこの解剖実習を振り返って、解剖実習をしてみないとわからなかったかけがえのない経験をさせていただきました。

今まで人体の構造や機能について勉強する際は、教科書等に載っているイラストや模式図を用いて理解をするようにしていました。しかし、それらが実際に人体に存在しているのかなどの想像がつかず、なかなか勉強が進まない時もありました。ですが今回解剖実習をさせていただき、教科書では学べない多くのことを学ぶことができました。ご遺体を丁寧に解剖し、いろいろな構造物をしっかりと観察することで、学ぶ意欲もより深まりましたし、改めて命の大切さを感じることができました。私は今回の解剖実習で学んだことを糧に、立派な歯科医師になりたいと強く思いました。献体に協力していただいた方々に深く感謝申し上げます。

## 人体解剖実習を終えて

まず初めに医学の教育・研究のために献体してくださったご本人、またご家族の方々に感謝いたします。今回はご遺体を解剖させていただくという初めての体験を通して多くのことを学ぶことができました。解剖実習と並行して人体解剖学の講義が行われていましたが、そこで理解していたつもりのことでも実物を見なければよく分からなかったことも沢山ありました。また実際に自分の手を動かしながら解剖を進めていくことは、教科書のイラストや文章から学ぶことよりもより身に染みて理解が深まりました。何よりも身体に張り巡らされた血管や臓器、身体を支える骨や筋肉が複雑に絡み合い身体を構成している姿は神秘的でもあり改めて人の尊さを感じ、より深く学ぶべき学問であると思いました。私は歯学を専攻していますが、今回の貴重な経験を糧に、今後も医療に従事する者として勉学に励もうと思います。改めて医学の発展のために献体してくださったご本人とその家族の方々に重ねて感謝いたします。

## 解剖実習を通じて

今日の情勢においてまずは解剖実習が果たしてできるのだろうかという心配があった。しかし、スケジュールがイレギュラーなものとはなったものの今は無事に終えられたことの安心感と達成感でいっぱいになった。正直なところ解剖実習に対して、あまりイメージがわからず、自分自身が怖がらずにちゃんとできるのだろうか、などといった漠然な不安を抱いていた。最初の何回かはあまり慣れることが出来ず、そして綺麗な状態のご遺体を傷付けてしまうことに対しても申し訳ない気持ちになった。しかし献体してくださった方が医学・歯学の教育と研究のために役立てたいという思いから献体してくださったことを考えると、毎回真摯にご遺体と向き合っただけで解剖をしてそこから少しでも多くの知識を得て今後の学習に役立てていけるようにしていくことが大事なのではないかと思うようになった。そして百聞は一見に如かずということわざを身をもって実感した。というのも実際に解剖をして、教科書だけでは得られない知識と経験を得ることができたように思う。今回の解剖実習を通して得たことを今後の学習への糧にし、献体してくださった方への感謝を忘れずに立派な歯科医師になりたいと思う。

献体への感謝と解剖実習を通しての学び

この度は東京医科歯科大学への献体のご協力ありがとうございました。献体して下さった方、その他の皆様のご協力により、歯科医師を目指すものとしてまた一つ学ぶことが出来ました。

私は献体ということ考えたとき、ご遺族の方々にとっては、とても厳しい決断だったのではと思っております。私も家族が解剖されることを考えると、心がとても苦しいです。だから今回、この献体制度にご理解を示し決断をして下さった献体をして下さった方、ご遺族の方々には感謝しかありません。

私はこの解剖の授業が始まるまでは、教科書や資料でただ構造を学ぶだけでした。しかし実際に解剖してみると、千差万別で想定と違うことが多々ありました。これはこの実習をやらない限り気づかないことだと思います。私はこれから歯科医師になるものとして、まだ様々な人体のことを学んでいきます。しかしその学んだ知識が完全に現場で当てはまるわけではないと思います。しかし今回の経験を生かして、考え、様々な患者さんを助けることの出来る歯科医師になれるように精進していきたいと思えます。

この度は貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

## 人体解剖学実習を通して

献体してくださった方、本当にありがとうございます。今まで、授業や教科書での学習など座学で解剖学の勉強をしてきましたが、平面で見る図や文字での解説を読むということだけでは複雑な神経の走行や、筋肉の起始停止などを理解することに限界がありました。しかし、この解剖学実習を通して解剖学を深く理解することができたと思います。また、写真や解剖学の教科書の図などを見るだけでなく、実際の組織を見ることが出来たことはこの後の学習の定着度を格段にあげることが出来たのではないかと思います。

そして、実際に人体に触れるという機会をくださったことは、この後の学習や卒業後実際に仕事をするようになってからも、とてもためになると思います。それもひとえに献体してくださった方のおかげであると考えています。この学びの場を設けてくださった。献体してくださった方、献体の会の会員の皆様、本当に感謝しています。ありがとうございました。私も将来献体することとも考えうるきっかけにもなりました。

## 人体解剖実習を通じて

まずは献体してくださった方々に深く感謝いたします。私たちは頂いた遺体を解剖することにより様々なことを学ばせていただきました。まずこの実習を始めるにあたって、一人一人様々な思いがあって献体をするという決意をしたのだという思いを感じました。そのことから中途半端なことはできない、頂いたご遺体を最大限学びに生かなければならないという使命に近いようなものを感じました。それが自分の学びの動機になり、自分ひとりの為ではないという意識が生まれました。またこの実習を通じて、今後患者さんを治療するという事への責任感や医療倫理の大切さを学びました。医療倫理の問題は今日様々な議論が様々な場所でされていますがそこに正解がないからこそ常に考え続けなければならず、個人の考えがとても大切なものになります。例えば、極論を言うと、ある病気に対してそれを治療するのかもしれないのかという決断も場合によってはしなくてはなりません。私たち医療従事者は病気を治すために日々努めているのに、治療しないという決断をする可能性もあります。そういう責任感のある職種なのだという自覚を持ちながら今後も精進します。献体して下さりありがとうございます。

## 解剖学実習で学んだこと

今回人体解剖学実習で遺体を解剖することで様々なことを学ばせていただきました。実際に献体してくださった方の遺体を解剖し、観察することで人体の構造などの学問的な知識として持っていたものを実地することができました。学問的な知識に加えて、初めて人を相手とした実習を経験したためか、医療従事者としての自覚が芽生えました。

学問的にも精神的にも貴重な体験をさせていただきました。

## 人体解剖実習感想

今回の人体解剖実習は他学科の生徒では経験できないような貴重な経験をさせていただいたと思います。遺体を解剖させていただいたことで人体の様々な構造について自分の目で色々な発見をすることができました。私は歯学科の学生ということで頭頸部部分の解剖がメインでしたが、医学科の方が解剖した全身の構造も確認することができ、頭頸部と全身との関連も理解することができました。また私自身が主軸に解剖した頭頸部ですが、自分が思っていたよりも神経、筋肉、血管の構造が複雑で、献体してくださった方によっても解剖部分の見え方が違いなかなか教科書通りにはいかない難しさも感じました。それとともに将来自分が患者さんに治療する際にこのような複雑な頭頸部の構造についてしっかりと勉強し治療に挑まなくてはならないという責任感も感じました。これからも今回献体してくださった方、その遺族の方への感謝や今回の人体解剖実習で学んだことを忘れずに、勉強に励んでいきたいと思っています。

## 解剖実習を終えて

私は、少しでも人のためになれたら、少しでも多くの笑顔を見ることができたら、そんな思いで歯科医師を目指しました。そして、Covid-19という未知な驚異的なウイルスに対して、連日医療従事者の方々が全力で治療にあたっている姿をみて、自分自身も立派な医療従事者になりたいと思う気持ちがより強くなりました。

解剖実習では座学などの授業では決して学ぶことのできないことを多く学ぶことができます。今回の実習では、本当に貴重な体験をさせていただくことができました。献体をしてくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。また、解剖実習を通じて、医療知識はもちろん、人の命の重みを感じました。体を構成する様々な臓器や構造が機能することで私たちは生きていくことができるのだと深く実感しました。この実習を通して、これから医療人として生きていくことに実感がわいてきました。

今回の実習に関わったすべての方々には感謝いたします。必ずこの貴重な体験を無駄にせず、立派な歯科医師になれるように精進して勉学に励んでいきます。

実習を終えて

献体してくださった方とそのご家族に深く感謝申し上げます。また、新型コロナウイルスにより様々な制限が課せられている中で学習効果を最大限得られるよう尽力してくださった先生方にも感謝致します。

解剖実習に対しては入学前から、教科書では学ぶことが難しい身体の構造を学ぶことができるという期待と、人体に関する知識が乏しい状態で実習を行うことに対する不安を抱いていました。しかし実際に実習が始まり進んでいくにつれて抱いた感情は、感謝以外に何ありませんでした。予定通り順調に実習が進み、複雑で奇跡としか言いようがない人体の構造を目の当たりにした時、献体してくださった方とそのご家族に対する言いようのない感謝の念を深く心に抱きました。一方で予習をしてもどうしても実習が上手く進まず、心が挫けそうになる時もありました。しかし、そんな時にも目の前の献体してくださった方に対する感謝の気持ちがあったからこそ最後まで実習をやりきることができました。

この経験と感謝の気持ちを忘れることなく、一人でも多くの人を笑顔に出来る歯科医師になりたいと改めて心に誓いました。

## 人体解剖実習を終えて

約2ヶ月間の人体解剖実習を終えて、非常に大変な実習を終えて正直ほっとしている。それと同時に、濃い内容の約2ヶ月間だと思った。遺体を解剖することによって、医学的なことの勉強になったり、実際に献体してくださった方のお顔を見たり、その心情を考えたりすることで、道徳的な勉強になったりした。この人体解剖実習をすることで学んだことが二つある。一つは、実際にご遺体を解剖することによって、見て触れてみて勉強することである。参考書などを見て予習を進めて理解していても、実際ではなかなか難しいことであることの方が多かった。また逆も然りで遺体を解剖することによって、実際に自分の目で見ることで、簡単に理解出来ることも多々あった。百聞は一見にしかずということはこのことで、さらに効率的だということがわかった。二つ目は、道徳的な学習である。初めて解剖実習室に入って、ご遺体の布をめくって、お顔を見た時に様々な感情が生まれた。献体を私たちに提供して下さったことに感謝でいっぱいです。この二つの他にも多くのことを学べた解剖実習であった。これからも立派な医学生になれるよう勉学に励みたい。

## 解剖実習の感想

解剖実習では、非常に沢山のことを学ぶことができたと思う。献体をしてくださった方とそのご遺族の方々には感謝の気持ちで一杯だ。このような機会を与えて下さりありがとうございました。

実際の体は想像以上に複雑だったというのが、解剖実習が終わったの私の感想である。自分が解剖しているご遺体と別の人が解剖しているご遺体を比較する機会が何度かあった。共通点もあれば相違点もあり、人の体のつくりは、本当に多様であるということを実感する事ができた。解剖実習は毎回予習をしつかりとした上で臨むようにしていた。しかし実際に始まると、分かることよりも分からないことの方が圧倒的に多く、自分の未熟さを痛感する日々であった。

今回の解剖実習を通して、知識を増やすことの必要性を感じた。歯学科は高学年にもう一度解剖実習があるようなので、そのときまでにたくさんのお話を学んでおきたい。

この気持ちを忘れずに、さらに身を引き締めて日々の勉強に励んでいきたい。

## 複雑な人体構造

今年度の歯学科の人体解剖実習は、新型コロナウイルスの影響で例年よりも短時間で頭頸部のみ自分たちで解剖し、体幹部は医学科の解剖遺体を観察するという方法で行われました。人体の構造は、私が想像していたよりもはるかに複雑で、自分が観ている構造が何なのかということを理解することが非常に難しく感じました。いくらしっかりと座学での人体の構造に関する授業を受けて知識を身に付けても、実際にご遺体を自分で解剖してみるとなかなかその知識だけでは不十分であり、自分がいかに知識不足なのかを痛感したとともに、座学だけでは定着しない人体の構造についての知識を、解剖実習を通して定着させることができるということを身をもって体験し、実習の大切さを感じました。新型コロナウイルスの影響で実習が大幅に縮小されてしまったことはすごく残念なことでしたが、密にならないような環境を作り、私たちのために何とか実習を行うおうと動いてくださった先生方、そして、献体をしてくださった方に心から感謝しています。

解剖学実習を振り返って

東京医科歯科大学歯学部二年次前期に行われた人体解剖学実習を振り返るにあたり、まず初めに解剖するご遺体を献体してくださった本学「献体の会」の方、ならびにそのご遺族の方には深くお礼申し上げます。

今年のご存じの通り、新型コロナウイルスの影響により、スケジュールが非常に混乱しました。本来歯学科単独での解剖実習は四月下旬から、医学科と合同の解剖実習は六月末ごろから開始する予定でしたが、今年は六月から比較的早いペースで実習を行わせていただきました。密を避けるために代表者のみで納棺は行ったため、感謝の意を十分に伝えきれなかったことは個人的には悔やんでいる要素であります。

解剖学を始めとする学問の理解を深めるには実習をして実際に目で見るという行為は欠かすことが出来ず、今回の経験は今後必ずや私たちの役に立つことと思われまます。

繰り返しにはなりますが、私たちにこのような貴重な経験をさせてくださって本当にありがとうございました。

特別な機会を頂きました

今回の解剖を経て、私は今まで以上に医療に携わる人間としての自覚を得ることが出来ました。医科歯科大では一年次に教養科目を学んでいたこともあり、将来への意識が薄れているなかでこのような機会を頂くことができ、今一度将来のことを考えなおし、沢山の方々に支えがあって私たちの学びが成り立っていることを理解することが出来ました。初めての経験であったので慣れないことばかりでしたが、貴重な機会を頂いたことに感謝しながら解剖を行うことが出来ました。将来歯科医師になり、すこしでも多くの人を救うことが出来れば良いと思っているが、いつでも頭の中には献体してくださった方やご遺族の方の色々な思いがあった上で働くことが出来ていることを絶対に忘れないようにしようと思います。最後とはなりますが、この度は私たち学生に機会を与えていただけたことに深い感謝を申し上げます。将来この御恩をお返しできるように日々学びに励みたいと思います。

人体解剖実習を通じて

私はこの2ヶ月弱の人体解剖学実習を通じて、医学の知識に加えて大きく二つの事を学びました。

一つ目は、医学は決して自分だけの力で学ぶことは出来ないということです。いくら本や参考料で勉強しても、写真やイラストで人体の構造を学ぶことと、御遺体を通じて本物の構造を学ぶこととは全く違うことでした。実際に体験しないと分からない事は多くありますが、こんなにも大きく違うものなのかという事、実際に体験する事の重要性を改めて感じました。それも、献体をしてくださった方々がいないれば成立していないことであり、献体をしてくださった方々、ご遺族の方への感謝の気持ちを持って実習に臨みました。

二つ目は、医療人としての責任です。献体をしてくださった方々は、将来の医療の発展に繋がる事を期待し、教育のためにと自らの意思で選択をされた方々です。この実習を通じて多くの事を学び、これから医療人となる自分たちには、その意思を受け継ぎ、また期待に沿えるよう努力する責任があります。支えていただいた全ての方に恥じぬような医療人を目指し、これからはより一層力を入れて勉強に励みたいと感じました。=

## 人体解剖実習感想文

はじめに、献体してくださった方の利他的ご決断と生死にまっすぐ臨まれた態度を崇高なものと感じています。そして、歯学を学ぶ私たちに歯学の発展への架け橋を築き、社会や人類に最終的に貢献されていることに感銘をうけています。

献体してくださった方が歯学生の学習過程での「無言のメンター」という役割を果たされることで将来の医療発展に貢献されているのだと実感しました。

私たち歯学生はご遺体を解剖させていただくことで、人体を直接観察させていただくという貴重な経験から歯学だけではなく道徳・倫理的な心構えの仕方も教えてくれているのだと感じました。

このような学びの機会をいただけたことへの感謝を忘れることなく、医療に従事する者としての心構えとして大切にしていきたいと思えます。

最後に、献体してくださった方のご遺族及び献体の会の会員の皆様のご決断、ご理解に深く感謝し、心からお礼申し上げます。

私たちはこれからも勉学に励むとともに人を敬う気持ちを忘れずに社会貢献第一の精神で世の中の役に立てる医療人になることをここに誓わせていただきます。

## 歯科医師の礎として

まず初めに今回の人体解剖という貴重な機会をいただけたことに感謝いたします。解剖を通して、人体の構造についての理解を非常に深めることが出来ました。通常の授業などで見るイラストや写真と実際に目で見て触れることによつて身に着けられることがいかに違い、自身で解剖を行うことが自分にいかに影響を与えるかを深く知りました。人体への造詣とともに精神的にもまた一つ成長できたと思います。自分が医療者になることへの覚悟と自覚を得られました。これから先歯科医としての道を歩む中で、今回の解剖を通して得た人体の根本的理解が礎になっていくと感じました。そして、あらゆる歯科治療を行う際に必ずこの機会に得られた知識と経験がいかされていくのだと感じられました。この度はより一層の理解と自身の医療者としての成長の場を与えてくださったことに感謝しております。あらためて、献体してくださった方々及び献体の会の会員の皆様、ご遺族の皆様に深く御礼申し上げます。

解剖実習を終えて

はじめに、人体解剖実習のため献体してくださった方とご遺族の方に心より感謝申し上げます。

普段の講義や試験勉強などを通してたくさんを知り、学ぶことが出来ましたが、実際にご遺体を目の前にすると知識だけで医学は成り立たないのだと深く感じました。人体解剖実習を通して人の体について知るというのは、とても大切なことだと思います。教科書などに載っているものと異なるものや、思ったイメージと違うものがたくさんあるため、今回の実習でより正確なイメージを知る事ができたと思っています。これらは教科書や講義だけでは知ることができない物だと思います。特に頭頸部の神経が、実習前に思っていたよりもとても複雑に入り組んでおり、講義で習うだけではだめだと感じました。今回の実習で体の構造をすべて知れたわけではないので、これからもっと勉強して、より理解を深めて行きたいと思います。

最後に、私たち学生にこのようなとても貴重な体験をさせていただきありがとうございます。これからもがんばっていきましょうと思います。